

当院におけるVTE予防対策 ワーキンググループの取り組み

井手時枝[†] 黒木 保 山田成美¹⁾
尾崎真人²⁾ 三角紳博³⁾ 吉田真一郎⁴⁾
八橋 弘⁵⁾

第77回国立病院総合医学会
2023年10月21日 於 広島

IRYO Vol. 79 No. 2 (99-103) 2025

要旨

日本医療安全調査機構による急性肺血栓塞栓症に係る死亡事例の分析では、すべての入院患者に静脈血栓塞栓症 (venous thromboembolism) (VTE) の可能性があることを認識する必要があるとされている。当院では手術予定患者を中心にVTEリスク評価表を紙ベースで運用してきた。また、未評価の患者にもVTEリスクの高い患者が潜在していたが、これまで全入院患者への評価ができていなかった。さらに、リスク評価表のカルテ取り込みまでに時間を要し、多職種で同時に発症リスクを把握することが困難であった。これらの問題点を解決するために全入院患者を対象とした電子カルテ上でのリスク評価運用を目指して2022年4月より多職種でのワーキンググループを発足した。ワーキンググループの活動内容を経時的に示す。【2022年5月～9月】各種文書の作成、電子カルテの仕様確認 【2022年10月】電子カルテ上の設定、運用マニュアルの作成 【2022年11月】各部署への説明 【2022年12月】リスク評価表と同意書の運用を開始 【2023年1月】リスク評価表の運用状況の調査、診療プロトコルの作成開始 【2023年2月】診療プロトコル完成、リスク計算ツールの作成開始 【2023年3月】リスク計算ツール完成 【2023年4月】診療プロトコルの運用を開始。以上のようなワーキンググループを中心とした継続的な活動により比較的スムーズにリスク評価のデジタル化が実現できた。リスク評価と同意書をセットで作成したことにより患者、家族への説明が同時に行えるようになり、業務の効率化に繋がった。また、肺血栓塞栓症予防管理料の処置入力もリスク評価と同時に行うことで算定漏れを防ぐ効果も見られた。さらに、診療プロトコルの作成により発生時のリスクレベル評価と診断治療のフローチャートを確認できるようになった。院内発症のVTEにおける重症症例は医療安全管理室で情報収集を行い、リスク評価の内容を確認している。今後の課題としては、各診療科での共通認識の醸成と継続が挙げられる。

キーワード 静脈血栓塞栓症, リスク評価表, ワーキンググループ, 肺血栓塞栓症予防管理料

国立病院機構長崎医療センター 医療安全管理室 1) 国立病院機構嬉野医療センター 救急科 2) 国立病院機構長崎医療センター 診療情報管理室 3) 薬剤部 4) 血液内科 5) 消化器内科 †看護師
著者連絡先：井手時枝 国立病院機構長崎医療センター 医療安全管理係長・看護師長
〒856-8562 長崎県大村市久原2丁目1001-1

e-mail : ide.tokie.nx@mail.hosp.go.jp

(2024年4月5日受付 2024年6月14日受理)

Initiatives of the VTE Prevention Working Group at Our Hospital

Tokie Ide, Tomotu Kuroki, Narumi Yamada¹⁾, Masato Ozaki²⁾, Nobuhiro Misumi³⁾, Shinichiro Yoshida⁴⁾, and Hiroshi Yatsuhashi⁵⁾

Medical Safety Management Section, NHO Nagasaki Medical Center 1) Emergency Department, NHO Ureshino Medical Center 2) Medical Information Management Office 3) Department of Pharmacy 4) Department of Hematology 5) Department of Gastroenterology, NHO Nagasaki Medical Center

(Received Apr. 5, 2024, Accepted Jun. 14, 2024)

Key Words : venous thromboembolism, risk assessment table, working group, pulmonary thromboembolism prevention and management fee